

審議会等の会議結果報告書

【担当課】 文化財課

会議の名称	令和7年度 第1回茅野市博物館協議会		
開催日時	令和7年7月4日（金）午前10時30分～午前11時40分		
開催場所	八ヶ岳総合博物館 実験工作室		
出席者	白鳥保美委員長、櫻井洋副委員長、宮坂均委員、小平正八委員、平出信次委員、両角紀子委員、両角茂子委員、高木信委員、田中未知世委員、山田由岐子委員、 山田利幸教育長、小池岳史生涯学習部長、湯田坂幹雄文化財課長兼尖石縄文考古館長、山科哲同考古館係長、両角徹生八ヶ岳総合博物館長、正木美香同博物館係長、鶴飼幸雄神長官守矢史料館長、柳川英司同担当		
欠席者	市川純章委員、吉江利彦委員、矢崎進一委員、守矢昌文考古館特別館長		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
生涯学習部長	<p>1 開会 皆さん、おはようございます。 本日はお暑い中、また、ご多用のところ、お運びいただきましてありがとうございます。 これから令和7年度第1回博物館協議会を開催いたしますようしくお願いいたします。</p>		
教育長	<p>2 委員の任命</p> <p>3 教育長あいさつ お忙しいところ集まっておいただき、どうもありがとうございます。 昨年度からの引き続きの方、また今年度委員になられた方々、どうかよろしくお願いいたします。 コロナが終了してから数年経つわけではありますが、この中で、全国の多くの博物館が、閉館、或いは縮小という形になっております。 茅野市の場合、私たちの博物館は、皆様方のおかげで、コロナの前以上の力を盛り返しています。感謝申し上げます。 さてその中で、私たちの博物館の中に、新たに若手の職員が集まってきています。堀川君。考古館にいらっしゃる方です。それから上野さん。学芸員として新たに考古館に入ってきました。今までもいらっしゃった若い吉村さん。博物館と史料館兼務でやはり学芸員の南澤さん。若い職員が4人、新たに集ってきています。こんな中で、10月4日から12月まで、古墳展が開かれるわけですが、若手がこの計画・企画を立てました。今年度は、若い</p>		

委員長

人の力を中心に新たな1歩を踏み出す年になろうかなと思います。本当にささやかな1歩ですが、どうか皆さん応援してください。それでこの1歩が、本当に博物館が変わってく大きな力になってくると私は信じています。どうかよろしく願いいたします。

4 委員及び職員の自己紹介

5 茅野市博物館協議会設置条例について

6 協議事項

(1) 正副委員長の互選について

委員長 白鳥 保美 氏
副委員長 櫻井 洋 氏 が選出される。

(2) 審議会等の会議の公開について

協議に先立ち、茅野市博物館協議会設置条例について事務局から説明。
協議に先立ち、協議会の公開について事務局から説明。

～資料1、資料2の説明～

本日の会議の公開、議事録の公開について説明及び確認を行い、非公開基準に該当する項目はないため、当会議を公開とします。議事録に関しては、委員名を表示せずにホームページで公開します。

(承認)

了承される。

(3) 各館 令和7年度事業計画について

資料に基づき、年間事業報告について事務局から説明を行う。

- ・尖石縄文考古館（考古館長）
- ・八ヶ岳総合博物館（博物館館長）
- ・神長官守矢史料館（史料館館長）

私は大河原土地改良区の役員をやっているのですが、今年は、役員が変わったこともありまして、総代の方々の研修に、先日ここへ来させていただきました。70名ぐらいの役員の方、大体60代後半から70代の方々たちですけれども、多くの方が、「こんなところもあるのか、知らなかった」ということを話していました。「いやすごいな、ここにこんなに養川のことがあるんだ」とか、「のこぎりのこともあるんだ」とか、「寒天のことがあるんだ」「自然のこともこんなにあるんだ」と。

「俺初めて入った」という人が大分いて、その声には私は唖然としてしまいました。私は自分がここには大分前からお世話になっているのですが、市民の方はそうなんだなあと、ちょっと複雑な思いをしました。

こうした中で先日アンケート（公共施設のあり方アンケート）が行われて、茅野市にあってもいい施設、なくてもいい施設という中で、博物館が課題の施設になっているわけですけど、あのアンケートはどういう方が対象と

委員

して選ばれたのかなと、複雑な思いがあります。博物館に関心がない人がなくてもいい施設だと言っているとすれば、すごく関わってる人とか、この価値をすごく知ってる人は、ああいうふうにアンケートの機会をいただいたら、どう回答したかなと思っています。先ほど史料館長さんが、「知っていただく」とって言葉を言われましたけど、まさにこの言葉はキーワードかと思いました。

「知っていただく」となると相手がいるわけだから、相手の方に知っていただく段階まで持っていくまで、いろんな手だてがあるかと思っています。先ほどの会議はまたあるので、私も皆さんに、博物館のことをお知らせしたり、皆さんの思いを聞いたり、深めたり高めたり、伝えあったりしていければなと思って今日ここへ足を運ばさせていただきました。

それぞれの博物館の館長さんはじめ、館の方々が大変な努力をして、いろんなアイデア出されているんな試みされて、ここまで、来ているわけで、決して安穏な日々を送られているとは全然思っていないし、本当にいろんな工夫をして運営をされているのではないかと思います。

こういうことも、市民の方に知っていただくというすべは、どうあればいいのか、また、ここの館、他の館も含めて、この存在意義が市民の方に素直に伝わる手立てがあればもっと市民の方がこの価値がわかるんじゃないかなと私は思っておりますが、ここにお集まりの方々、いかがでしょうか。これは1つの課題かなと思っていますが。

ちょっと意見がまとまらないんですけども。

間違っているかもしれませんが、行政の上の方は、費用対効果、という面で、いろいろな施設、或いは行事というかを見がちというような気がします。

茅野市内にはいろいろな施設があって、よく市民の皆さんが足を運ばれる施設もあれば、「そんなの」というような、特に文化系のものについては、知らなかったというようなものが、あるのかもしれませんが。

例えばゆいわーくとか、市の公民館とかいうようなものは、比較的多くの方が、利用します。自分からみて、たびたび足を運びますが、文化財の関係については、その点、ちょっと引けをとるというか、ちょっと不利な立場にはあると思います。費用対効果だけで、図っていくのは、スポーツ施設についても、文化施設にしても、ちょっと、違うかなと思います。

やっぱり税金を投入しても、こういうことで、市としてはお金にならなくても、市民の皆さんが、一部の方でも心豊かになっていくような、そんなような面で見えていただくと同時にやっぱり、費用対効果もある意味大事ですので、多くの方に利用していただくような、施策というか、努力も必要かなと思います。

副委員長

今の話も関連するところもあると思いますが、私は社会科の教師をやっております、いつも思っていることがあります。日本のこの歴史の中において、茅野市、及び諏訪地方が、日本の中心になった時代や事象が3つあるかなということはずっと思っていたんです。

1つは、縄文時代です。人口密度が日本で一番高かったと思われるので、私の中のイメージでは、今の日本の人口密度が一番高い首都圏東京、銀座・原宿・六本木がこの地にあったと。そのようなイメージで私は思っています。

	<p>2つ目の時代の中心になったのは明治の初期。明治から昭和初期の製糸業の時代で、多いときは4割の外貨獲得が製糸業でなされていて、その中心が諏訪地方だったということで、今は自動車産業が、日本の外貨獲得の主力ですが、大体20%行くかどうかという、そういうことを考えると、私の中のイメージでは、今日本にある大工業自体が、すべてこの諏訪にあったというようなイメージであります。</p> <p>もう1つは、諏訪大社の存在で、これは日本の歴史に多大な影響を与えておると。そんなことを考えると、今発表していただいたこの施設は、本当に茅野市の宝であると同時に、日本の宝だなんてことを感じています。</p> <p>日本の中心がここにあった、日本の歴史に多大な影響を与えた大元がここにあった、そのような視点からも考えてみると、私たちここに住む郷土の者たちの誇りもさらに高まるし、日本の宝として大切にしていこうというような機運も高まっていくかなということを思っております。</p> <p>今委員さんがおっしゃった、税金を投入しても心が豊かになるっていう、そんなところにも繋がるのですけれども、ぜひぜひ、日本の宝として、また茅野市においても地域おこし・まちづくり・人材育成に関わって大切な施設だと思っておりますので、大切にしていってほしい。今日すぐに答えは出ないかもしれませんが、今、委員長さんがいわれたように、少しでもそういうような視点も含めて、多くの方に知ってもらえればいいかなと感じましたので、感想になりますが、述べさせていただきます。</p>
<p>委員長</p>	<p>高校を卒業して、ここを出て巣立っていく人たちもいる中で、高校を出てしまうと、ここに関わる人はすごく限られてくると思います。</p> <p>そう思うと、小中学生の段階で、この博物館の名前を知っているだけじゃなくて、ここへ1回は、足を運ぶ機会があればいいなと私は思っています。</p> <p>1回はここに入って、諏訪を巣立つなり、諏訪で生きるなり、ここで、頑張るなりというふうになればいいかなと思います。そういう意味では、関わられる時っていつだろうかと考えると、やっぱり小学校の3年か4年の郷土学習のときに、ここに1回足を運んで、地元の玉川、豊平だけじゃなくて、北山とか、金沢とか、バスで何とかここに来て、「ここにこういうものがあるんだ」という理解をした上で、当然縄文も、3つの館が、ここにあるんだってことを知って巣立つなり、このふるさとで生きるなりすれば、またここに関わろうとか、あそこにはこういうものがあるんだ、ネットワークがあるんだというような意識が生まれると思います。名前を知っていてもここへ足を運ばないで巣立ってしまうと、先ほど言った60代の人たちのような声が出るのかな、という気がします。そんな働きかけがうまくできればいいかなと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>おっしゃる通り、中高生になると、それぞれマイワールドができてくるので、そうした考えを持ってもらうには小学校の3・4年かなと思います。</p> <p>小学校では博物館学習をやってらっしゃらないのでしょうか。私はてっきりこの辺の小学校は博物館に来るものだと思っていましたが、来ないのでしょうか。</p>
<p>博物館長</p>	<p>諏訪、或いは茅野市の子どもには、ここに来て、学んでほしいな、展示を見て欲しいなというふうに考えています。</p> <p>学校独自で考えてくださっている豊平小学校は、近くですのでよく来てく</p>

ださったりしています。昔の暮らしということで、古民家のところに入って、説明をします。

例えば古民家にある「箱膳」をとりあげて、「昔はエコな生活をしていたんだよ」という話ができたりするので、より印象深くなってくると思います。また、博物館では子ども教室もやっています。それにたくさん参加してくださる方もいます。

また先ほど宣伝という話がありましたが、市民研究員というグループがあって、そこに何か発信ができないかという話をしたら、実験工作グループの方が、「オープン LINE というのを作って、宣伝したいがいいですか」と提案してくださったので、どうぞってことで今年から始まりました。

ワクワク科学工作という、毎月 1 回募集してきてもらう講座や、年間通して受講するクラブの保護者にもオープン LINE のチラシを配りたいと言っていました。

PTA の親子レクに来たときにもワクワクっていう講座があるから宣伝してくれないかと話をしたら、いいですよということで、オープンチャットに入ってもらったりする。

そんなたくさんではないですが、上手に入ってきたりしていて、宣伝をしていくようなことで、できていくんじゃないかなと思っています。

去年作らせてもらった「リニューアル八ヶ岳総合博物館」を今配らせていただきましたけれども、そんなふうにして、子どもクラブとか、それから大学生とか高校生とかも連携するというのでやっています。

7 月 12 日には東海高校さんの方で来ていただいて、マジックショーをする。さらに今年はコケテラリウム作りもプログラムに入れるというような提案が来ていますので、まずはそういったことで子どもたちが参加していくことから、ちょっとですけども階段を上っていけるんじゃないかというふうに考えてやっております。

先ほど委員さんからお話がありましたが、お金は、私たちがやっていることが、なかなか繋がりにくい側面があります。

お金になるってことを、人間に例えると、「お腹の足しになる」と私たちはよく言います。もちろん食べるものは食べないといけないわけです。

それも必要なんだけど、やっぱり心の足しになるといいですか、心豊かになるということも、人間が生きていく上では、その両方があるって初めて元気に生きていこうという気持ちもまた出てくるというふうに私はいつも考えております。

そういう話を、今年 4 月、生涯学習部の経営方針として、まずはそれぞれの施設で、やるべきことを、特徴ある展示をしているので、その施設の特徴を存分に生かすために、まず何をやらなきゃいけないのかということ、皆さんにしっかりと考えてやってくださいというようなお話をしました。

これまで、どちらかというと、いろんな企画展をやって来館者を待っているというような感じでした。しかし、だんだん職員の意識も変わってきて、みずからが地域に出ていくということを始めしています。

若手職員を中心に、今年も古墳展をやりますが、とにかく地域をピンスポットでねらってその地域へ出て行って、地域の人たちに参加してもらうような機会をつくることも意識をしてやっております。

教育長

それで私も若い職員に、区とか公民館とか、そういうところの講座と連携をして、どんどん外へ出て行ってやってほしいという話を数年前からしています。そういうものが、今ようやく形になってきているかなという感触は得ておりますので、もっともっと攻めの気持ちで、こちらから地域出ていく。そのことで、博物館の認知度、知名度も高めていきたいと思っております。

それから子どもの教育。子どもたちに触れていただく機会というのもです。博物館は特にプラネタリウムも、出前講座をやっていますし、考古館では、縄文市民科っていうのが平成 26 年に創設をされて、学校から求めがあれば、学芸員が出て行って土器作りをやったりだとか、いろんなことを展開しています。

小さいうちから、擦り込んでいくことがすごく大事で、それが子どもたちが、一旦大学とかで茅野市を出ていっても、また茅野市に戻ってくるきっかけになるのではないかなというようなところを考えながらいろいろをまいてきたところでもあります。

それと、発信については委員長さんからもご指摘を、これまでもいただいています。先ほど博物館の館長申し上げましたけれども、市民研究員の皆さんに SNS 使ってということも始めております。あとテレビの影響は大きいと思いますので、こちらからも、市長の定例記者会見というものが、毎月 1 回月初にあります。できるだけそういう場で、市長の口から発表していただいて。そこにはテレビ局も新聞社もありますし地元のテレビ局の方も入ってますので、そういうメディアを使いながら、どんどんと発信をしていきたいと考えております。

1 つ目は、アピールが下手だというのはご指摘の通りです。

ただ、1 昨年度から考古館、それから総合博物館関係の新聞記事を意識して出させていただくようになり、増えてきています。

けれども、なかなか市民の方に、浸透していないというのがあると思います。

それから文化芸術。これは幾らやってもお金にならない。だから文化芸術を、公が守っていかなくちゃいけないというふうに思っています。

教育委員会としては、今ある 3 博物館初め様々な文化芸術教育的施設をどうやってももっと充実させていこうかと考えています。それで今、急遽館長に総合博物館のグランドデザインに当たるものを配っていただきました。一昨年、頭絞って総合博物館は、ここにある 5 つの特色を出していけば、何とかなるだろうと。

1 つ目は地元企業の先端技術の展示、これから始めていきます。

それから市民研究員。全国の博物館でも、本当に数少ないのですが、市民研究員の方が運営のお手伝いをしてくださっています。それから子どもたちの多様な学びを支える、博物館だけで今年度 69 講座が子ども対象講座となっています。よくここまでやってくれるという感じです。それにプラス公民館、尖石を入れると 80 近い子どもの講座を 3 館で、やってくださっています。史料館の方は、ちょっと子どもには難しいですが、できるだけ遠足のコースに入れてくれと言っています。今年は入ったかどうかわかりませんが、ということでもあります。

委員長	<p>それで皆さん方にお願いですが、2年前に考えたのはこういう5つの特色を出して、充実させて発展させていく、そうすれば、総合博物館の存在価値っていうのがもっと上がってくと考えたわけですが、知恵を出していただいて、総合博物館の場合だったら何をもっとやっつけていけば価値が上がっていくか、それから尖石の場合、史料館の場合もどうしたらもっと価値が上がって、市民の中に伝わっていくかって、そんな視点から、考えていただけたらと考えています。</p>
委員長	<p>教育委員会の費用対効果の費用は、文化芸術の事です。</p>
博物館長	<p>博物館長、前に郡の校長会の4月に先生わざわざ出られて、八ヶ岳総合博物館のPRをされていましたが、今もやられているんですか。</p>
委員長	<p>機会があるごとです。前は、エプソンとの連携をするっていうようなことで、校長先生方に、「夏、こんなのやってる！茅野市だけじゃなくて、岡谷も、諏訪も、下諏訪も、富士見も原も子どもたちを呼ぶよ」ということで宣伝をさせてもらいました。</p>
委員	<p>茅野市の校長会の方でも、ぜひ今出てきた話題を、出してもらって、何とか子どもたちが学校にいる間に1回は全員がここへ来るといような、場を踏めるものができればどうかと思います。</p>
委員	<p>先ほど教育長さんの方から話があった、若手職員の学芸員がここに来て、数人増えてきたということですが、その学芸員の人たちが、誇りを持って、茅野市の遺跡だとか、発掘だとか、そういったものを、市民の方たちに伝えていく思いというのか、そういったものに憧れるというか、そう言った気持ちになれるような支援を、下から上から支えてもらいたいです。</p>
委員	<p>例えば、今の考古館特別館長と私は同期で市役所に入りました。入ったときは、正直言って学芸員の人達なんて、雨の中も、また晴れた日も、ほこりまみれになって、自分の好きなことやっていて。言葉は悪いですが、そう思うくらいの意識だったんです。でも今は全然違います。大先生たちなんですよ。</p>
委員	<p>史料館長さんたちを初めとして、そういう方たちが育ってきたっていうのもありますが、やっと認知をされて、そして若い人たちが活躍できるそんな土壌ができたと思いますので、その若い人たちがもっと誇りを持てるような、そんな支えを、上からもしてもらいたいと思っています。</p>
委員	<p>それから、私も、神長官のお手伝いをさせてもらっていますが、ほとんど来る人たちは、県外の方たちなんです。</p>
委員	<p>わざわざ県外の人たちが、足をとめてわざわざ寄っていくっていうところが、神長官なんです。地元の方たちはほとんどそこに足を運ばない、知らないという事なんです。県外の人たちがどうやって神長官を知ってくるのか、探ってくるのかは、なかなかわからない部分もあるんですが、先ほど言われたように、鹿の国という映画や、昨年ですか？逃げ上手の若君っていう少年ジャンプに連載された漫画が流行って、前宮が舞台だと。諏訪圏が舞台になって物語を作っていくような漫画が流行って、それを見て来られたという方たちもたくさんいます。</p>
委員	<p>特に若い女性が1人で足を運ぶっていう、そういうところが今神長官になっているのかと思います。何か秘密めいたものを解き明かしたい、そんな気持ちで来ているのかなと思います、やはりこういった博物館の施設っ</p>

生涯学習部長

ていうのは、ワクワク、ドキドキするものを誘うっていうことになる、それはどうするとワクワクするのかっていうと、「なぜ」、「どうして」がわかるからドキドキするんじゃないかなと思うんです。

例えば神長官だと、神長官何のためにあったのか、何をしたのか、何の役割があったのか。上社はなぜそんなに生贄を好んだのか、そんな秘密がわかってくると、とてもお客様の反応がいいんです。ですので、そういった部分を、掴んであげる、そういうような試みができれば、博物館にも、市民の方も足を運んでくれるんじゃないかなと思うので、なぜそこにこういった施設があるのか。どうしてここにその施設がなきゃいけないのか、そんなところをもう少しみんなで考えていければいいのかなあと思っています。

委員さんのお話の中で市として、学芸員をどのように支えていくかというお話がありました。

これにつきまして資料の2ページに、先ほど考古館の館長からもお話ありましたけれども、若手職員が今こんなような調査研究をしていますということを、考古館の係長が企画をしております。

ここで意図したのは、彼らのやっていることを、自慢をすとかそういうことではなく、まず1つは市民の人たちに私たちはこういうことやっているということ話をしていく中で、いかに市民と接点を持っていくか。市民の人たちと一緒にやることが、まちづくり人づくりには、欠かせないことなのでその辺を強く意識しております。

市のこの文化行政は、まちづくり人づくりには欠かせないということを、庁内の職員にも、やっぱりアピールをしていかなければいけない。それが私たちの、しっかりとやっていかなければならないことだという意識のもとでっております。

私ども施設に勤めている人間だと、本庁の職員と会う機会が非常に少ないわけです。ですので、それこそ委員さんがおっしゃられたように、好きなことをやっていいよねというような、そんなような見方をされがちなんですけれども、いやそうではなくて、これは真のまちづくり人づくりには欠かせないものだよということを私たちから、市の職員、本庁の職員にしっかりと伝えていかなければならないというふうに思っています。

そういうことをやらずして今まで来たのかなという反省も実はありますので、こんなこともこれからどんどんやっていって、まず、自分たちの仲間、本当に私たちがやってることの本質的なところを、しっかりと伝えていくことが大事かと思っております。そんなところで、若手の職員のやる気をもっともっと引き出していきたいと思っております。

私、茅野市の広報アプリ（LINE）を二、三ヶ月前から入れたので、あれは見るんですよ。子どもたちに聞くと、「うちのお父さんは新聞とっていない」とか言っていて、新聞を知らない子どもが大分いるんです。なので、新聞のPR力もあるけどもSNSのPR力って、大きいなと思っているので、そのような広報手段も必要なPR方法かと思っております。

（4）その他

・条例改正について

資料に基づいて6月議会で議決された条例改正のうち、10月1日から施行

委員長

副委員長

される尖石縄文考古館・八ヶ岳総合博物館・神長官守矢史料館の料金改定について事務局から説明する。

7 閉会

皆様、大変ありがとうございました。

大変有意義な協議がなされたと思いますので、今後に活かしていければと思います。

それでは以上をもちまして、第1回の茅野市博物館協議会を終了いたします。

ありがとうございました。

お疲れ様でした。

～午前11時10分 会議終了～